

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0874300676		
法人名	特定非営利活動法人福祉サポートセンター県西さわやか		
事業所名	グループホーム 県西さわやか		
所在地	茨城県猿島郡境町1663 (電話) 0280-87-3280		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年7月9日

【情報提供票より】 (平成21年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤	7人, 非常勤 8人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成21年2月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	4	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.7 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	茨城西南医療センター病院	なかい歯科クリニック
---------	--------------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族会を毎月開催し、地域の人々も招いてボランティアによる演芸を楽しんでいる。
 家族等や地域の関係者にホーム便り配布し、家族会の様子や運営推進会議で話し合われたことを報告している。
 施設長による本の朗読や行事後の俳句作りのほか、町の作品展に向けた制作など楽しみごとの支援をしている。
 町に救命救急センターがあり、緊急時の協力を依頼しているほか、ホームでは看護職員を2名配置し利用者の変化にすぐ対応している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 自己評価や外部評価の意義を全職員が理解し、課題であった運営推進会議を開催するほか、介護計画に実施期間を明記するなど改善している。 職員は受講した研修内容を報告し、全職員が共有して支援に活かしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価をすることで運営体制の課題が改善されるとともに、利用者へのサービスの質の向上につながることを全職員が認識して取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議ではホームや認知症の理解を深めてもらうために努めているが、出た意見をサービスの質の向上に活かすまでには至っていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等に行事への参加を呼びかけ多くの家族等と会話をする機会をつくり、意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけるとともに意見箱を設置している。 苦情処理に関して事業所以外の第三者機関を運営規程に明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 管理者が町の老人会会長ということもあり、老人会との交流が多い。 地域の人々が気軽に訪れて来れるようホームを開放している。 家族招待会などのホームの行事に地域の人々を招待したり、町の敬老会や清掃活動に参加するなど地域に溶け込む努力をしている。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の一つに「その人らしさの生活を尊重する。買い物や外出など市民生活を継続する」との地域密着型サービスとしての理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示するとともに、申し送り時やカンファレンス時に確認し実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の時に地域の人々に積極的に挨拶するとともに、気軽に訪れて来れるようホームを開放している。 庭の池の鯉を子供が見に来た時は、利用者も一緒に楽しんでいる。 家族招待会などのホーム行事に地域の人々を招待したり、町の敬老会や清掃活動に参加するなど地域にとけ込む努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は課題に気付き改善につなげる機会と捉え、全職員で取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームや認知症の理解を深めてもらうように努めているが、出た意見をサービスの質の向上に活かすまでには至っていない。	○	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、出た意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は行政と行き来を頻繁に行い、相談するとともに助言を得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等に行事への参加を呼びかけ多くの家族等と会話をする機会をつくって利用者の様子や金銭管理を報告している。 家族会では月1回外部からゲストを迎え楽しんでおり、その様子や運営推進会議で話し合ったことをホーム便りで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時に意見や苦情を出しやすい雰囲気づくりを心がけるとともに、意見箱を設置している。 苦情処理に関して事業所以外の第三者機関を運営規程に明記している。	○	第三者機関の苦情相談受付窓口を運営規程だけでなく重要事項説明書に明記し、利用者や家族等に説明することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の交代はなく、馴染みの職員による支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修情報の中から希望の研修を受講している。 リハビリ体操や緊急時の応急処置など、職員で内容を共有し日常の支援に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員と相互訪問や勉強会を行い情報交換をするとともに、日常業務の見直しに活かしている。 ケアマネジャー連絡協議会や研修会にも参加し、サービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学や宿泊体験をしてもらい、慣れてから利用を開始するよう配慮している。 急な利用で馴染めない場合は、家族に頻繁に面会に来てもらうよう働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ごとに担当職員を決め、敬意を持って支援するように心がけている。 利用者から昔からの行事や畑仕事、裁縫などを学び、支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が食後などに会話する機会を多く作り、思いや意向の把握に努めるとともに家族等から情報を得たり、日常の行動からも把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族等、医師と話し合い、職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画後の状況や効果などをカンファレンスやモニタリングを通じて評価し、状態の変化や要望にそって随時介護計画を見直している。	○	介護計画の期間を定め、定期的に見直すことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅への一時帰宅やかかりつけ医への受診など、利用者の要望にそって柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等と話し合い、希望にそってかかりつけ医を継続して受診できるよう家族等の協力を得て支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで対応できる支援方法を家族等や医療機関と話し合い方針を共有しているが、状況の変化に応じた話し合いはあまりなされていない。 利用者の急変時には24時間体制の救命救急センターに協力を依頼している。	○	重度化や終末期に向けては、状態に応じて繰り返し話し合いを行い記録するとともに、関係者が方針の確認を密にして共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを傷つけないような言葉かけに注意しさりげなく対応をしている。 個人情報の管理に注意し漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物、急な要望にも柔軟に対応している。 利用者は午前中は体を動かしたり町の作品展出品のため制作をし、午後からは職員と会話を楽しむなど思い思いに過ごしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の方から差し入れられた旬の野菜を食材に取り入れ、味付けや食材の話をするなど、和やかで家庭的な食事をしている。 日曜日は調理員が休みのため、利用者が職員と一緒に調理をするなどで能力を発揮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回(月、水、金)利用者が希望する時間に入浴の支援をしている。 同性の職員による入浴支援ができるよう勤務体制を調整している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやモップかけ、花の水やりなど、生活歴を活かした場面づくりをしているほか、花見や行事の後に俳句を読むなど楽しみごとの支援をしている。 職員が担当制でイベントを企画し、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠出の回数は多くないが、隣接している寺とホーム周辺が散歩コースになっており、30分ほどかけて散歩をするほか、庭に大きなテーブルと椅子を設置し、日光浴やお茶飲みを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアに取り組み、利用者の行動傾向を把握するとともに目配り支援をしている。 近所にも認知症の理解を求め協力を依頼している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力のもと勉強会を開き、利用者と避難訓練をしている。 緊急時の連絡網や初期対応マニュアルは職員目の届くところに掲示しているが、食糧や飲料水を備蓄するまでには至っていない。	○	不測の事態に備え食糧や飲料水などを備蓄することを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録するとともに、利用者一人ひとりへの対応は看護職員の指示で支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや共用空間は季節の草花が飾られており、ゆったりしたソファも所々に設置している。 壁には利用者が作った折り紙や絵、俳句などの作品がたくさん飾ってあり、生活感のある居心地の良い空間になっている。 また、季節に応じて敷物を変える工夫もしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は8～12畳と広くゆったりしているので、利用者が使い慣れた家具や品物を色々持ち込んでいる。 利用者は壁に家族の写真や手作りの作品を飾るなど、思い思いに居心地の良い居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。